

# 教育研究業績書

2018年11月08日

所属：共通教育部

資格：准教授

氏名：西尾 亜希子

|       |   |
|-------|---|
| 研究分野  | 研究内容のキーワード  |
| 教育社会学 | 高等教育とジェンダー  |
| 学位    | 最終学歴  |
| PhD   | Doctoral Studies in Education, Institute of Education (現UCL Institute of Education), University of London |

| 教育上の能力に関する事項 |     |    |
|--------------|-----|----|
| 事項           | 年月日 | 概要 |

|  |                |   |
|--|----------------|---|
| <b>1 教育方法の実践例</b>                          |                |   |
| 1. 「ジェンダーとアイデンティティ」の授業における西宮市男女共同参画推進課との連携 | 2018年05月24日    | 昨年度西宮市民を対象に実施された意識調査の結果報告を西宮市男女共同参画推進課の松井裕行氏にいただいた。西尾は西宮市男女共同参画審議会の委員として、同意識調査の設問や結果の分析・考察などにあたっている。SNSを利用した性犯罪が中高生や大学生の間でも頻発しているが、加害者、被害者ともに何が性犯罪にあたるのかについての認識が弱い。授業では、受講生に対して結果報告を行っていただいた後、質疑応答の時間を設け、性犯罪に対する意識啓発に取り組んだ。 |
| 2. LGBT (SOGI)に関する授業の展開                    | 2017年09月15日～現在 | いくつかの調査から、LGBTIに該当する人々は約8%と意外に多く、身近な存在であることがわかっている。100名定員の共通教育科目のクラスであれば、8名程度は学んでいる計算になる。実際に学生からのセクシュアリティに関する相談も増えている。そのような背景を踏まえ、自らが担当するジェンダー関連科目においてもLGBTの現状や当事者が直面する問題点などを取り扱うようにし、受講生には「人権」という観点から理解を深めてもらうよう努力している。    |
| 3. ミニッツペーパー活用による双方向授業の展開                   | 2010年04月から現在   | 共通教育科目授業の定員は100名であり、双方向的な授業の展開が困難であるが、各授業で数回ミニッツペーパーを授業中の課題として課し、次の授業でそのいくつかを紹介し、フィードバックを行ったり、その後の授業の展開に役立てている。   |
| 4. 担当する全科目において授業中に科目内容に関するクイズを出題           | 2008年04月～現在    | 受講生との双方向的な授業を目指して、受講生にたびたび質問を投げかけ、受講生には自由に発言するよう促したり、タイミングを見計らって授業内容に関する短いクイズ（回答は3択～5択）を出題し、授業に集中するよう促している。   |
| 5. レポート・論文の書き方指導                           | 2008年04月～現在    | 多くの担当科目の評価方法がレポートであるため、授業内で導入部・展開部・結論部などの段落の設け方や参考文献の挙げ方を指導している。  |

|                     |  |  |
|---------------------|--|--|
| <b>2 作成した教科書、教材</b> |  |  |
|---------------------|--|--|

|   |                           |   |
|---|---------------------------|---|
| <b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>            |                           |   |
| 1. LGBTに対する理解の啓発を目的とした教職員向け講義の実施        | 2017年07月10日               | 平成29年度共通教育懇談会で共通教育科目担当者を中心とする教職員を対象に「LGBTを理解する」というテーマでミニ講義を行い、当事者に対する理解の啓発を努めた。学生や教職員を含め、身近にLGBT当事者がいる可能性が高いことを認識してもらうため、人口比率を明らかにした後、LGBTの定義および定義をめぐる議論、LGBTの現状と課題等について講義した。（武庫川女子大学中央キャンパス） |
| 2. 西宮市大学交流センター共通単位講座担当                  | 2010年04月～2010年09月         | 西宮市内の大学に通う学生や社会人に対して、日本社会における基本的なジェンダー問題について講義した。   |
| 3. 金沢大学男女共同参画キャリアデザインラボラトリー主催プログラムの講師担当 | 2008年10月24日               | 共通教育科目「ジェンダーと教育—ジェンダー学実践編」を担当した。同大学の学生に対するオムニバス形式の授業の講師の一人として、教育におけるジェンダー問題について講義した。（金沢大学角間キャンパス）   |
| 4. 甲南大学文学部の「ジェンダー論」で講師担当（ゲスト講義）         | 2002年01月17日および2004年01月15日 | 隔年で高等教育とキャリアに関する講義を行った。大卒者のキャリアパスについてジェンダーの観点から考察した。（甲南大学岡本キャンパス）   |

|                             |                |  |
|-----------------------------|----------------|--|
| <b>4 その他</b>                |                |  |
| 1. 教育研究所 研究員                | 2009年04月01日～現在 | 研究員として論文の執筆をしたり、新学部開設に関わる調査や報告書作成などに関わっている。  |
| 2. 学生生活、留学・大学院等への進学に関する相談受付 | 2009年04月～現在    | 学生からの相談内容は、学生生活全般、語学留学、アカデミック留学、短大から大学への編入、就職、英語の勉強の仕方など実に多様である。留学生からの勉強の仕方に関する相談も多い。可能な限り時間を割き、相談にのるよう心がけている。 |

|              |  |  |
|--------------|--|--|
| 職務上の実績に関する事項 |  |  |
|--------------|--|--|

| 職務上の実績に関する事項                                 |                          |  |
|--|--------------------------|--|
| 事項   | 年月日                      | 概要   |
| <b>1 資格、免許</b>                               |                          |  |
| 1. TOEFL 607点                                | 1993年05月                 | ロンドン大学修士課程に進学する前のスコア。  |
| 2. Cambridge First Certificate               | 1991年02月                 | ケンブリッジ大学英語検定機構による資格。   |
| <b>2 特許等</b>                                 |                          |  |
| <b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>                 |                          |  |
| 1. 伊丹市男女共同参画施策市民オンブード（学識経験者）                 | 2018年05月01日～ 現在          | 伊丹市男女共同参画施策市民オンブード設置要綱に基づく業務（「第2期伊丹市男女共同参画計画」の進捗状況の調査（各課・センターの責任者に対するヒアリング調査の実施など）、調査報告書の作成、調査内容の報告等。  |
| 2. 米国スミス・カレッジ関係者への面接調査の実施                    | 2017年11月05日～2017年11月12日  | 科研費関連研究の一環として米国における有名女子大学の1校である同校で実施されている金融教育の動向について面接調査を実施した。また、LGBT学生を受け入れや学生生活の現状などについても面接調査を実施し、マウント・ホーリーヨーク・カレッジやシモンズ・カレッジでも資料を収集した。  |
| 3. 西宮市時事講座担当                                 | 2017年09月05日              | 西宮市民を対象とした講座「えっ、世界で111位？男女共同参画社会をめざして」の講師を担当した。世界経済フォーラムが2016年に公表した「「グローバルジェンダーギャップ指数2016」によると日本の男女平等ランキングは144か国中111位であり、経済、教育、政治、保健の4分野のうち、経済、教育の評価が特に低かった。評価の内容、問題点、解決策を明示した。西宮市学文公民館主催。（西宮市学文公民館）   |
| 4. 「働き方改革」の実現に向けて一非正規雇用者を主体とした図書館運営の課題」      | 2017年08月02日～2017年08月03日  | 図書館関係者、自治体関係者らを対象とした武庫川女子大学・株式会社図書館流通センター共催セミナーで、「日本型雇用システムの視点から見る女性の活躍と雇用」と題して、特に女性非正規雇用の現況（労働環境や不安など）に焦点をあてつつ、女性非正規雇用者および図書館や自治体の双方にとってメリットのある働き方改革の方法について述べた。（8月3日13:00-14:30 武庫川女子大学日下記念マルチメディア館）  |
| 5. 川西市男女共同参画審議会 副会長（有識者）                     | 2017年05月31日～現在           | 市民意識調査の作成や結果の分析および条例案の作成などを通じて市への提言を行っている。   |
| 6. 伊丹市男女共同参画審議会委員（有識者）                       | 2015年07月01日～2017年06月30日  | 委員としてDV対策基本計画策定等にあたった。   |
| 7. 兵庫女子教育セッション2015                           | 2015年05月30日              | 中学・高校受験を考えている生徒や保護者を対象に「今だから必要な女子教育とは一親世代と異なる時代を生きるために」と題して1時間の講演を行った。（芦屋ラポルテホール）  |
| 8. 英国におけるパーソナルファイナンス教育導入の主導者および担当主任への面接調査の実施 | 2014年04月26日から2014年05月03日 | 英国では2014年秋から中等教育におけるパーソナルファイナンス教育が必修化された。必修化に至るまでには様々な議論が展開され、困難を極めた。日本ではすでに金融・経済教育が必修化されているが、時間の確保や教員の知識不足など、様々な問題が指摘されている。科研費関連研究の一部として、英国におけるパーソナルファイナンス教育の導入の主導者と実際の現場で担当主任になることが決定している教員らに現状と課題について半構造化面接調査を実施し、日本の今後の教育のあり方に関する示唆を得た。（pfeg London） |
| 9. 2011年度鳴松会文化祭協賛・教養講座担当                     | 2011年10月23日              | 学生、教職員、市民を対象に「『女性はお金に疎い』ことがなぜ問題なのかー アメリカからの警鐘」と題して講義を行なった。（武庫川女子大学中央キャンパス）   |
| 10. 寝屋川市男女共同参画推進センターふらっとねやがわ学習講座担当           | 2011年03月13日              | 「名前は最初のプレゼント」と題して、性別や流行にとらわれるのではなく、ひとりの人間として子どもへの思いを込め、命名することの大切さについてジェンダーの観点から講義を行った。（寝屋川市男女共同参画推進センターふらっとねやがわ）   |
| 11. 西宮市男女共同参画推進委員会 委員（有識者）                   | 2009年04月01日～現在           | 委員として西宮市男女共同参画プランの作成や市民・事業所意識調査の作成・実施、DV対策基本計画策定などに関する助言を行っている。  |
| 12. 西宮市男女共同参画センターウェブ主催講座担当                   | 2008年12月12日              | 「多様化する家族ーイギリスに学ぶ家族支援のあり方」と題した講座を担当した。ブレア政権における社会保障制度の拡充やその効果、さらには問題点について、特に社会的排除に焦点をあてて検討し、日本への示唆について明らかにした。（西宮市男女共同参画センターウェブ）   |
| 13. 川西市役所の男女共同参画職員研修会講師担当                    | 2006年11月08日              | 「日本およびフランスにおける『ジェンダー』政策の現状：家族政策を中心に」というテーマで、同市役所の課長級以上の職員に対してジェンダーに関する基礎知識および日仏のジェンダー政策について特に家族政策の観点から講義を行った。（川西市役所）   |
| 14. 川西市男女共同参画審議会 委員（有識者）                     | 2005年04月01日～2017年03月31日  | 審議会委員として川西市男女共同参画プランの作成、市民意識調査の作成・実施、DV対策基本計画策定、男女共同参画推進条例などに関する助言、ニュースレター用の記事を執筆してきた。   |

| 職務上の実績に関する事項  |                         |   |
|---|-------------------------|---|
| 事項  | 年月日                     | 概要  |
| <b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>  |                         |   |
| 15. 宝塚市男女共同参画審議会 委員 (一般公募)  | 2002年04月01日～2005年03月31日 | 審議会委員として宝塚市男女共同参画プランの作成や市民意識調査の作成・実施などに関する助言を行った。   |
| 16. 大阪府女性総合センター (ドーンセンター) 『Dawn』編集委員  | 2001年04月01日～2003年03月31日 | 海外向け機関誌『Dawn』の記事執筆および編集を行った。  |
| <b>4 その他</b>  |                         |   |
| 1. 西尾亜希子 (2010) 「女子の大学進学に伴う諸効果に関する考察：広義の人的資本論によるアプローチ」『武庫川女子大学教育研究所 研究レポート』の引用  | 2016年                   | 姉川恭子 (早稲田大学大学総合研究センター) 「社会的評価における早稲田大学の位置付けと戦略的ベンチマーキングに関する研究：女子学生の進学動向をめぐって」の6頁で引用。  |
| 2. 引用実績 学術論文「日本人留学生の留学動機に関するジェンダー学的考察」(査読付)の引用  | 2014年4月                 | 赤崎美砂(2014)「発展する留学成果意識－日本人成人女性の生活設計と留学」淑徳大学編『国際経営・文化研究』vol. 18, No. 2, 1-14頁で引用。   |
| 3. 引用実績 学術論文「英国大学院で学ぶ日本人留学生の動向－ジェンダーの視点から」  | 2013年                   | 鈴木寿子 (2013) 「女性の大学院留学生はどのように日本留学を開始、継続、最終するのか」お茶の水女子大学教育機構紀要『高等教育と学生支援』8-19頁で引用。  |
| 4. 引用実績 博士論文' Issues Facing Japanese Postgraduate Students Studying at the University of London with Special Reference to Gender' の引用 | 2012年                   | Wisker, G. (2012) The Good Supervisor: Supervising Postgraduate and Undergraduate Research for Doctoral Theses and Dissertations (Palgrave Research Skills), Palgrave Macmillan, 324頁で引用。   |
| 5. 引用実績 学術論文「日本人留学生の留学動機に関するジェンダー学的考察」(査読付)の引用  | 2008年12月                | 小林葉子 (2008) 「エンパワメントとしての英語力とジェンダー：多学問的視座からTESOLへの示唆」岩手大学人文社会科学部『アルテス リベラレス』1-11頁で引用。  |
| 6. 引用実績 学術論文「日本人留学生の留学動機に関するジェンダー学的考察」(査読付)の引用  | 2008年                   | 神谷浩夫、由井義通他 (2008) 「オーストラリアで学ぶ日本人留学生のライフコース」愛知教育大学『地理学報告』106, 1-14頁で引用。  |
| 7. 引用実績 博士論文' Issues Facing Japanese Postgraduate Students Studying at the University of London with Special Reference to Gender' の引用 | 2007年                   | Leonard, D. (2006) 'Early career academics' doctoral experiences' SRHE Symposium 11th December 2007, 3頁で引用。   |
| 8. 引用実績 博士論文' Issues Facing Japanese Postgraduate Students Studying at the University of London with Special Reference to Gender' の引用 | 2001年                   | Leonard, D. (2001) A Woman's Guide to Doctoral Studies, Open University Press, 26頁で引用。  |
| 9. プリティッシュ・カウンシル奨学金受給   | 1996年09月～1997年08月       | ロンドン大学教育研究所 (Institute of Education <現UCL Institute of Education>, University of London) 教育学専攻 博士課程 (Doctoral Studies in Education) 在籍時に受給。   |
| 10. ロータリー財団国際親善奨学金受給  | 1994年09月～1995年08月       | ロンドン大学教育研究所 (Institute of Education <現UCL Institute of Education>, University of London) 女性と教育専攻修士課程 (MA in Women and Education) 在籍時に受給。勉強に勤しむことと国際親善大使として日本の文化を英国に紹介するという責務を負っていた。そのため、長期休暇や週末を利用して、ロンドン市内およびロンドン郊外のロータリークラブ6カ所を訪問し、自らが準師範免状を取得している生派生田流箏曲の歴史や楽器としての箏の歴史や音を奏でるしくみなどについて講演し、邦楽に関心を持ってもらうよう努力した。 |

| 研究業績等に関する事項   |         |           |   |  |
|---|---------|-----------|---|--|
| 著書、学術論文等の名称   | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称   | 概要   |
| <b>1 著書</b>   |         |           |   |  |
| 1. Widening Participation in the Context of Economic and Social Change (査読付投稿論文による書籍) | 共       | 2017年06月  | Forum for Access and Continuing Education (FACE), London, England: University of East London. | ISBN:9780995492219<br>"Undergraduate student perceptions of personal finance in Japan: A comparison across genders and major fields of study", pp. 193-210. 2016年6月に第23回FACE大会(クイーンズ大学、英国バークマスト)で口頭発表した研究を論文にまとめたもの。科学研究費補助金(2012-2014)関連の研究の成果の一部として、関西の3大学で学ぶ56名の大学生がパーソナルファイナンスの捉え方の共通点と相違点についてジェンダーと専攻分野の観点から考察を試みた。Annon, P, Lukadi, M, Warner, A, Bun, R. J., Nishio, A 他。 |
| 2. アクティブ・ラーニングで学ぶジェンダー  | 共       | 2016年03月  | ミネルヴァ書房   | 第8章「キャリアと金融リテラシー－人生設計の視点を学ぶ」担当。これまでのキャリア教育は企業分析、適正、キャリア発達などを重視する傾向があったが、本章ではライフプランニングの視点を重視する新たなアプローチの重要性を説き、実際にそれを学習できる構成にしている。編著者は青野篤子。執筆者は宇井美代子、上野淳子、赤澤順子、神前裕子、水澤慶緒里、井ノ崎敦子、松並知子、西尾亜希子、荻野佳代子、滑田暢子、土肥伊都子、澤田忠幸。  |
| 3. アジアのなかのジェンダー第2版  | 共       | 2015年05月  | ミネルヴァ書房   | 第1章「ジェンダーを考える視座」1-17頁、第6章「貧困化する女性－貧困予防策を探る」127-149頁  |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称   | 単著・<br>共著書別 | 発行又は<br>発表の年月 | 発行所、発表雑誌等<br>又は学会等の名称                      | 概要   |
|---|-------------|---------------|--|--|
| <b>1 著書</b>   |             |               |  |  |
| 4. アジアのなかのジェンダー   | 共           | 2012年05月      | ミネルヴァ書房                                    | 担当。編著者は川島典子、三宅えり子。他の執筆者は岡本民夫、西尾亜希子、岩田正美、松並知子、富田安信、大塩まゆみ、今井小の実、中村艶子、佐伯順子、細見三英子、佐々木正徳、喜多村百合、香川孝三。『アジアのなかのジェンダー』を2012年に刊行して以降、日本を含むアジア諸国の社会情勢が大きく変化したことに伴い、データや考察をアップデートしたものである。  |
| 5. 異文化間教育の研究  | 共           | 2008年12月      | ナカニシヤ出版                                    | 第1章「ジェンダーを考える視座」1-16頁、第6章「貧困化する女性—貧困予防策を探る」107-129頁の執筆、および他9章の編集作業を行った。第1章は「ジェンダー」ということばが使われるようになるまでの歴史的背景やことばの定義をしっかりとまとめている研究が少なく、その整理が必要という認識から執筆している。第6章は西尾の研究テーマをわかりやすくまとめたものである。編著者は川島典子、西尾亜希子。他の執筆者は岡本民夫、岩田正美、松並知子、富田安信、大塩まゆみ、今井小の実、中村艶子、佐伯順子、三宅えり子、細見三英子、佐々木正徳、喜多村百合、香川孝三。   |
| 6. Information Technology and Economic Development (査読付投稿論文による書籍)   | 共           | 2008年10月      | Hershey, PA: Information Science Reference | 第15章「異文化間教育における『ジェンダー』についての一考察」299-315頁担当。小島勝龍谷大学文学部教授が研究代表者を務めた科学研究費助成金基盤研究(B)「異文化間教育に関する横断的研究—共通のパラダイムを求めて」に研究協力者として参加してきた。その研究の総括である。異文化間教育研究においてこれまでなされてきた「ジェンダー」に関わる研究を整理し、ジェンダー研究が展開してきた本質主義をめぐる議論がそれに与え得る示唆を明らかにすることを試みている。小島勝龍谷、佐藤郡衛、塚本美恵子、村田雅之、山本雅代、徳井厚子、足立祐子、井狩幸男、末藤美津子、加藤三保子、甘日出里美、小澤理恵子、鈴木一代、とも利枝子、馬淵仁、松尾知明、渋谷真樹、西尾亜希子、出羽孝行、白土悟。   |
| 7. 女が変わる男が変わる100冊の本   | 共           | 1997年10月      | かもがわ出版                                     | ISBN:9781599045795<br>"Chapter XX The significance of the existence of women's colleges and their entry into science-related fields" PP. 278-290を執筆。女性の科学分野進出を考える時、女子大学はどのような役割を果たしてきたのか、そして果たし得るのかについて日本、アメリカ、韓国の先行研究や事例などを参考に執筆した。Kurihara, Y., Takaya, S., Harui, H., Kamae, H., Karatas, M., Bekmez, S., Nakagawa, R., Aslam, M., Siems, T.F., Gapen, M., Nishio, A., Papaioannou, M.<br>富士谷あつ子・伊藤公雄編著、かもがわ出版。女性学・男性学・ジェンダー学に関わる執筆者のひとりとして、大学時代に感銘を受けた著書『シンデレラ・コンプレックス』74-75頁、『津田梅子』82-83頁、『美の陰謀』76-77頁や、女子教育を研究する上で興味深い『女子大学論』78-79頁、『才女考』80-81頁、メディアの影響力を考える上で役立つ『雑誌文化の中の女性学』84-85頁の計6冊の概要を記し、紹介した。浅田豊、安藤明人、角村正博、野口芳子、森池日佐子、上杉孝賞、西尾亜希子、村岡洋子。 |
| <b>2 学位論文</b>   |             |               |  |  |
| 1. Issues Facing Japanese Postgraduate Students Studying at the University of London with Special Reference to Gender | 単           | 2001年08月      | University of London                       | 博士論文。総頁数337頁。ロンドン大学大学院で学ぶ日本人留学生に対して質的調査、主にインタビューを実施し、彼らが私生活面や学業面で直面する問題を中心にジェンダーの視点から考察した。   |
| <b>3 学術論文</b>   |             |               |  |  |
| 1. 女子大学生のキャリアプラン選択の規定要因—稼得意識、進路選択に対する自己効力、自尊感情、職業観  | 共           | 2018年03月      | 神戸女学院大学『女性学評論』第32号                         | 「貧困の女性化」が大きな問題となっていることを受け、女子大学生のキャリアプラン選択の傾向やその要因について検討した。その結果、経済的な自立志向ややりがいを求める職業観が稼得意識に関連する一方、プライベートを優先しすぎたり、職場での人間関係などを重視しすぎることが、稼得意識の喪失につながる可能性があることが示唆された。稼得意識を高めるような新たなキャリア教育を開発する必要性が示された。25-52頁。松並知子・西尾亜希子。  |
| 2. 女性にとっての職業資格の経済的効用および非経済的効用—女子大学で取得可能な国家資格を中心に  | 単           | 2018年03月      | 武庫川女子大学教育研究所『研究レポート』48号                    | 「資格を取っておくと就職、転職、復職に有利」とよくいわれるが、本当か。実際には資格の効用については良く知られていないのではないかと、女子大学で取得可能な国家資格を中心に、それらの資格の効用について経済的側面と非経済的側面から検討した。  |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称   | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月   | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称  | 概要  |
|---|---------|-------------|--|---|
| <b>3 学術論文</b>   |         |             |  |   |
| 3. Student perception of personal finance: a comparison across genders and major fields of study (査読付)                            | 単       | 2016年06月30日 | Forum for Access and Continuing Education (FACE) The 23rd FACE Annual Conference Abstract Booklet        | 。103-119頁。<br>科学研究費補助金(2012-2014)関連の研究の成果の一部として、関西の3大学で学ぶ56名の大学生がパーソナルファイナンスの捉え方の共通点と相違点についてジェンダーと専攻分野の観点から考察を試みた。12-13頁。(Queen's University, Belfast, Northern Ireland, UK)  |
| 4. 女子大学生のキャリアプランと進路選択に対する自己効力、経済的自立志向、基本的信頼感との関連  | 共       | 2013年09月    | 日本心理学会第77回大会発表論文集  | 女子大学生のキャリアプランにどのような要因が関連しているのかを明らかにするため、関西の女子大学生・短大生500名を対象に質問紙調査を実施した。その結果、結婚も出産もせずに働き続けたい人は自尊感情や基本的信頼感が低い傾向が見られ、また自己効力では他のグループと明確な差が認められなかったことから、自己効力や基本的信頼感を高めるような教育が必ずしも就労継続の意志につながらないことが示唆された。1229頁、松並知子、西尾亜希子。          |
| 5. Career Planning from a Financial Perspective: An Investigation into Female Students' Attitudes to Work, Family and Money (査読付) | 共       | 2012年09月    | The Journal and Proceedings of GALE (5)  | 関西の女子大学・短期大学で学ぶ学生428名を対象に将来のキャリアプランおよび金銭感覚についてアンケート調査を実施し、結果を考察して、若い女性の将来設計の危うさについて明らかにし、ジェンダー教育および金融教育のあり方について検討を試みた。38-58頁。、西尾亜希子、松並知子。   |
| 6. 女性のキャリアと金融リテラシー スミスカレッジの金融教育からの示唆  | 単       | 2012年03月    | 武庫川女子大学教育研究所 研究レポート、第42号   | 金融リテラシーとは何か、なぜ女性こそその能力が必要とされているのか、具体的にどのような教育が可能なのかについて、先行研究、アメリカ人女性の現状、アメリカのスミス・カレッジにおける教育実践を参考にしつつ、日本の大学における教育実践への示唆を得た。87-105頁。  |
| 7. 社会的排除と高等教育政策に関する国際比較研究—高等教育の経済効果の視点から  | 共       | 2010年09月    | (財)全労災協会『公募研究シリーズ』公募委託調査研究成果報告   | 貧困問題から社会的排除問題へ視点がシフトしている理由の整理を行なった。また、英国のブレア政権下では、社会的排除問題を高等教育政策の中で取り扱い、大学進学を希望する者を育て、その希望を叶えてきたが、その背景にはどのような理論が存在するのか、どのような効果があったか、課題は何かを中心に議論している。第2章「社会的排除対策の理論的基盤」18-26頁、第4章4節「日本版フレキシビリティ社会は可能なのか」49-52頁執筆担当。高屋定美、西尾亜希子。 |
| 8. 女子の大学進学に伴う諸効果に関する考察—広義の人的資本論によるアプローチ   | 単       | 2010年03月    | 武庫川女子大学教育研究所 研究レポート、40号  | 大学進学率には依然として男女差が見られ、常に女子の進学率は男子に比べて低い。しかし、女子の大学進学率の上昇には貨幣的效果および非貨幣的效果等期待することができる。これらの点について広義の人的資本論を用いて検討した。59-81頁。  |
| 9. 女性学・ジェンダーフォーラム in 2007 — 未来へつなぐ女性学、十人十色、『私』の30年を振り返る   | 共       | 2009年12月    | 日本女性学研究会編『女性学年報』、第30号  | 社会的排除問題をジェンダーの視点から考察することによって、日本における社会的に排除されている人々の特定し、それらの人々に対する支援策のあり方について検討した。131-177頁。荒木菜穂、西尾亜希子、堀内真由美、森理恵他   |
| 10. 異文化間教育研究とジェンダー研究の接続の可能性—『エイジェンシー』概念の活用を中心に  | 単       | 2007年03月    | 研究代表者 小島勝 龍谷大学文学部教授『異文化間教育に関する横断的研究—共通のパラダイムを求めて』平成16年度~平成18年度科学研究費補助金 基盤研究B(1) 研究成果報告書                  | アメリカのポスト構造主義の代表的思想家の一人であるJ・バトラーの「エイジェンシー」概念を活用して、「文化」を捉える事ができないか、事例を挙げながら可能性を探った。295-305頁。  |
| 11. 英国大学院で学ぶ大学院留学生の動向—首相主導事業(The Prime Minister's Initiative)開始以前と開始以降の比較   | 単       | 2007年02月    | 有本章・横山恵子編『外国人留学生確保戦略と国境を越える高等教育機関の動向に関する研究—英国・香港の事例』広島大学高等教育研究叢書、89号                                     | ブレア元首相の政権下では教育政策が重視され、高等教育においても留学生を獲得することによって、国内の高等教育や経済を活性化することが目指された。本稿では首相主導事業開始以前と以降に見られる留学生の動向をジェンダーの観点から分析した。19-34頁。  |
| 12. グローバル化する高等教育におけるジェンダー問題—英国の首相構想(PMI)の影響に関する一考察  | 単       | 2007年01月    | 広島大学高等教育研究開発センター(拠点リーダー:有本章)編『21世紀型高等教育システム構築と質的保証』COE最終報告書第一部(下)  | ブレア元首相の政権下では教育政策が重視され、高等教育においても留学生を獲得することによって、国内の高等教育や経済を活性化することが目指された。本稿では留学生に見られるジェンダー格差に焦点をあて、考察を試みた。120-138頁。   |
| 13. Gender Issues in the Globalization of Higher Education: A Study of the Impact of the Prime Minister's Initiative in the UK    | 単       | 2006年09月    | Research Institute for Higher Education, Hiroshima University (ed.) Gender Inequity in Academic Professo | ブレア元首相の政権下では教育政策が重視され、高等教育においても留学生を獲得することによって、国内の高等教育や経済を活性化することが目指された。本稿では留学生に見られるジェンダー格差に焦点をあて、考察を試みた。117-132頁。   |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称   | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称  | 概要  |
|---|---------|-----------|--|---|
| <b>3 学術論文</b>                                       |         |           |  |   |
| 14. 英国大学院で学ぶ留学生の動向（PMI以前とPMI以降の比較）                  | 単       | 2006年03月  | n and Higher Education Access: Japan, the United Kingdom, and the United States, COE Publication Series 22<br>広島大学高等教育研究開発センター（有本章）編『各国における外国人留学生の確保や外国の教育研究機関との連携体制の構築のための取り組みに関する調査』平成17年度文部科学省先導的大学改革推進委託研究 | ブレア元首相の政権下では教育政策が重視され、高等教育においても留学生を獲得することによって、国内の高等教育や経済を活性化することが目指された。本稿では首相主導事業開始以前と以降に見られる留学生の動向をジェンダーの観点から分析した。121-138頁。  |
| 15. 女性学教育における教授姿勢の問題：大学の女性学関連講座の受講生による批判から（査読付）     | 単       | 2004年05月  | 『大学教育学会誌』（第26巻 第1号）  | 本研究では、新聞等で取り上げられた女性学関連科目の担当教員らに対する受講生からの批判内容を整理した後、担当教員らが学生の関心を引くため有効と考え、積極的に採用して来たビデオ鑑賞やロールプレイ等に潜む問題点を示唆した。そして、さらなる教授法の発展には、今まで有効とされてきた教授法の問題点の所在を明らかにすることが不可欠であることを主張した。82-88頁。     |
| 16. 大学における女性学教育：教授法に関する現況と課題                        | 共       | 2003年11月  | 『大学教育学会誌』（第25巻2号）  | 大学における女性学教育で用いられる傾向のある教授法について様々な実践報告書をもとに考察し、問題点を明らかにした。65-67頁、西尾亜希子、志水紀代子。   |
| 17. 大学が担うべき役割の再検討：女子学生に対する就職サポートを中心に（査読付）           | 単       | 2003年11月  | 『大学教育学会誌』（第25巻2号）  | 女子学生の就職サポートにはロールモデルやメンターの活用が有効であることを、日米英などの研究や教育実践をもとに明らかにした。31-37頁。  |
| 18. 英国大学院で学ぶ日本人留学生の動向：ジェンダーの視点から                    | 単       | 2003年03月  | 大阪女学院短期大学紀要』（第32号）   | 博士論文の第2章を編修したもの。本研究では、日本人留学生の留学の特徴を男女別に明らかにするため、英国で独自に入手した統計を用いて、英国大学院で学ぶ日本人留学生の動向を英国大学院で学ぶ全留学生の動向と比較すると同時に、ジェンダーの視点から分析・考察を行なった。113-125頁。  |
| 19. 日本人留学生の留学動機に関するジェンダー学的考察（査読付）                   | 単       | 1999年09月  | 『日本ジェンダー研究』（第2号）   | 博士論文の第7章を編修したもの。留学の動機・目的を分析する際、ジェンダーの視点からの考察はほとんどなされて来なかった。ロンドン大学大学院の日本人留学生（男女52名）へのインタビューを基に、留学の動機・目的を性別により分析し、女性特有の問題点を明確化することを試みた。57-71頁。  |
| 20. イギリス青年男女のジェンダーによる役割分担に関する考察：ロンドンの青年男女を対象とした事例研究 | 単       | 1997年09月  | 『武庫川女性学研究』（第2号）  | 家事における性別役割分業の現実を追究するために、アンケートに加えてインタビューを実施し、それらに見られる回答間の差異について検討した。その結果、同じ内容の質問に対し、アンケートでは理想に近い回答が、インタビューでは本音またはより現実に即した回答が得られることがわかり、彼らの抱く分業観の理想と現実には、依然として大きなギャップがあることが判明した。69-83頁。 |

その他

1. 学会ゲストスピーカー

|  |   |             |   |  |
|--|---|-------------|---|--|
| 1. 女性のキャリア形成教育構想—ライフプランの視点を取り入れる必要性                        | 単 | 2018年07月21日 | 京都文化創生機構「フォーラム 男女平等と少子化抑止への対応」  | 京都文化創生機構主催の同フォーラムに非会員としての招聘を受けた。女子大学生が描く理想の生き方と女性の生き方の現状のギャップを明らかにし、そのギャップを埋めるためには従来のキャリア教育にライフプランの視点を入れることが不可欠であることを明らかにした。（同志社大学志高館）   |
| 2. Global Approaches to Widening Access from across the UK | 共 | 2016年06月30日 | Forum for Access and Continuing Education (FACE) 23rd Annual Conference | FACE会長のイースト・ロンドン大学J. ストラン教授によりラウンドテーブルセッションのパネラーとしての招聘。今大会のテーマである“Widening participation within the context of economic and social change: engaging applicants and empowering students to create successful graduates (経済・社会が変化する中で広がる参加：成功する卒業生を輩出するために進学希望者に関わり、学生をエンパワーする)”に関して、アメリカ、イギリス（イングランドと北アイルランド）、オーストラリア、スウェーデンからの報告者らと議論した。西尾は、日本の高等教育事情を概観した後、高学歴女性と労働市場の関係について報告した。（Queen's University Belfast, Northern Ireland, UK） |
| 3. 大学生の金融リテラシーを高めるための教育実践—ジェンダーの視点                         | 単 | 2015年09月    | 日本心理学会第79回大会  | 招聘シンポジストとして「ジェンダーで学ぶ・アクティブ・ラーニング」というテーマについて議論し   |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称  | 単著・<br>共著書別 | 発行又は<br>発表の年月   | 発行所、発表雑誌等<br>又は学会等の名称   | 概要   |
|--|-------------|-----------------|---|--|
| <b>1. 学会ゲストスピーカー</b>   |             |                 |   |  |
| 点から<br><br>4. 生活の質を考える—ジェンダーの<br>視点から  | 単           | 2013年04月        | Pas A Pas (大阪を拠点<br>とする健康的な生き方<br>に関する女性活動グル<br>ープ)                               | た。その中でジェンダーで学ぶアクティブ・ラーニ<br>ング』(2016年刊行)の西尾著「第8章キャリアと金<br>融リテラシー」の一部と関西3大学の学部生を対象に<br>実施した金融リテラシーに関する調査結果をもとに<br>「親近感」と「リアリティ」のある題材を扱う教育<br>を「継続的」に実施していくことの重要性について<br>述べた。(名古屋国際会議場)<br><br>ここ十数年アメリカやカナダ等の先進諸国において<br>生活の質や幸福に関する研究が盛んになっている。<br>今日では日本においてもその傾向が見られるよう<br>になってきた。一方でこれらの研究にはジェンダーの<br>視点が欠けていることは否めない。本講演では人々<br>がどのような事柄に対して、どのような時に、どの<br>ような場面で幸福を感じるのかに関する先行研究の<br>整理を行った後、ジェンダーによる違いが明らか<br>な事柄について考察を行なった。(リーガロイヤルホ<br>テル) |
| <b>2. 学会発表</b>   |             |                 |   |  |
| 1. Student perception of personal<br>finance: a comparison across<br>genders and major fields of st<br>udy | 単           | 2016年06月3<br>0日 | Forum for Access and<br>Continuing Education<br>(FACE) 23rd Annual Co<br>nference | 科学研究費補助金(2012-2014)関連の研究の成果<br>の一部として、関西の3大学で学ぶ56名の大学生が<br>パーソナルファイナンスの捉え方の共通点と相違点<br>についてジェンダーと専攻分野の観点から考察を試<br>みた。(Queen's University Belfast, UK)   |
| 2. 商学部・経済学部女子に学ぶパー<br>ソナル・ファイナンス教育のあり<br>方   | 単           | 2014年09月        | 日本教育社会学会第66<br>回大会  | 女子の大学進学者の増加に伴い、奨学金を借りる女<br>子学生は増加しているにもかかわらず、労働市場に<br>おける男女間格差があるため、奨学金の返還の見通<br>しは女性であるがゆえに立てにくい。そうである以<br>上、従来、お金のことは男性に任せがちであった女<br>性こそ、ファイナンシャル・リテラシーが必要にな<br>ってきている。本研究では、関西の3大学に在籍す<br>る大学生のパーソナル・ファイナンスやキャリアデザ<br>インに関して実施した面接調査の結果をもとに、特<br>に女性にとって必要と思われるパーソナル・ファイ<br>ナンス教育のあり方について検討した。(愛媛大学<br>・松山大学)   |
| 3. 大学生の奨学金受給行動とその要<br>因に関する研究 — 関西3大学で<br>の面接調査から  | 単           | 2014年06月        | 日本高等教育学会第17<br>回大会  | 今日、大学生の2人に1人が貸与型奨学金を受給して<br>いる。奨学金が「借入金」であることや、「借りる<br>こと」の負担やリスクについて十分な知識や覚悟も<br>ないまま、借りているのではないかと。いくらか<br>いを、なぜ借りているのか、返還についてどのよう<br>な計画を持っているのかについて質的調査より明ら<br>かにした。返還計画を十分持たないまま、結婚・出<br>産となれば、奨学金の返済に追われている親が子<br>どもを奨学金を借りよう追い込むことになる。世<br>代を通じて返済に追われるという自分たちの親<br>世代以前パーソナルファイナンス教育の導入の重<br>要性について検討した。(大阪大学豊中キャンパス)   |
| 4. 女子大学生のキャリアプランと進<br>路選択に対する自己効力、経済的<br>自立志向、基本的信頼感との関連   | 単           | 2013年09月        | 日本心理学会 第77回<br>大会   | 研究の結果、自己効力や基本的信頼感を高めるよ<br>うな教育が必ずしも女性の就労継続の意志にはつ<br>ながらないことが示唆されたため、経済的自立心<br>を養えるようなキャリア教育を実践していくことが<br>重要であると提言した。ポスター発表、松並知子、<br>西尾亜希子(札幌市産業振興センター)   |
| 5. 女性の貧困予防策としての金融教<br>育—諸外国の取り組みから   | 単           | 2012年09月        | 日本ジェンダー学会   | イギリスのシティズンシップ教育と金融教育の関<br>連を中心に欧米諸国と日本の金融教育の現状に<br>ついて比較研究を行い、日本の金融教育への示<br>唆を探った。(とよなか男女共同参画推進センター<br>すてっぷ)   |
| 6. Learning about gender: A survey<br>of interests at a women's u<br>niversity                             | 共           | 2011年05月        | Gender Awareness in L<br>anguage Education (GA<br>LE) Conference、                 | 162 female university and junior college studen<br>ts were given a written survey. The survey fea<br>tured qualitative and quantitative questions th<br>at focused on topics of interest, identifying i<br>mportant issues for Japanese women, preferred c<br>lassroom activities, and the overall impact on<br>students of studying gender. Akiko Nishio, Jhan<br>a Bach, Tomoko Matsunami. (京都大学)  |
| 7. 成人女性に対する高等教育供給プ<br>ログラムの検討—英国の「高等教<br>育へのアクセス」からの示唆   | 単           | 2010年06月        | 2010年度日本女性学会<br>大会  | わが国における成人女性に対する高等教育供給プ<br>ログラムの合理性を広義的人的資本論を用いて明<br>らかにした上で、そのあり方について英国の「高<br>等教育へのアクセス」コースから示唆を得た。<br>(大阪府立男女共同参画・青少年センター [ド<br>ーンセンター])  |
| 8. 社会的排除と高等教育政策に関す<br>る国際比較研究—高等教育の経済<br>的効果の視点から  | 共           | 2010年03月        | (財)全労災協会  | (財)全労災協会による2009年度の公募委託調<br>査研究として行った研究の結果報告を行った。<br>高屋定美、西尾亜希子。(全労災協会会議室)  |
| 9. 潜在的需要に応じた高等教育供給<br>プログラムの合理性とその検討   | 共           | 2009年06月        | 日本高等教育学会第12<br>回大会  | (財)全労災協会による2009年度の公募委託調<br>査研究として行った研究の中間報告として、<br>A.センのケイパビリティ・アプローチを使<br>って高等教育供給プ   |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称   | 単著・<br>共著書別 | 発行又は<br>発表の年月 | 発行所、発表雑誌等<br>又は学会等の名称   | 概要  |
|---|-------------|---------------|---|---|
| <b>2. 学会発表</b>  |             |               |   |   |
| 10. 社会的排除・ジェンダー・教育<br>— 英国における取り組みと日本<br>への示唆   | 単           | 2007年12月      | 日本女性学研究会30周年記念 女性学・ジェンダーフォーラムin 2007  | プログラム構築の意義を考察した。西尾亜希子、高屋定美。(長崎大学)<br>社会的排除とジェンダーの問題を教育的な観点から考察し、社会的排除問題に積極的に取り組む英国政府の取り組みから日本への示唆を得た。(大阪府立女性総合センター [ドーンセンター])   |
| 11. 異文化間教育における『文化』の捉え方  | 単           | 2007年06月      | 異文化間教育学会第28回大会 (ケース/パネル・パネラー)   | 異文化間教育学における「文化」の捉え方について、グローバル化が進展する中、これまででありがちな本質主義的な捉え方の問題を指摘した。(目白大学新宿キャンパス)  |
| 12. 女性の大学型高等教育進学を妨げる要因の考察   | 単           | 2007年05月      | 日本高等教育学会第10回大会  | 北欧諸国など、欧米諸国の中には成人女性の高等教育進学者が多いこともあり、女性の進学率の方が高い国が存在する。しかし、日本の場合は依然として、女性の進学率の方が低い。その理由を整理し、それらの問題点について考察した。(名古屋大学)  |
| 13. グローバル化する高等教育におけるジェンダー問題：英国PMI以前と以降における大学院留学生の動向比較から   | 単           | 2006年12月      | 同志社大学教育文化学会第16回年次大会   | 英国のブレア政権下では、大学院留学生を中心に留学生の受け入れを積極的に行うことにより、自国の政治・経済の進展させようとしているが、留学生の出身国による偏りは言うまでもなく、教育段階、ジェンダー等によっても著しい偏りが見られる。本報告では英国の留学生の動向について、特にジェンダーの観点から問題点を明らかにした。(同志社大学新町キャンパス)                                   |
| 14. 女性大学の理工学系分野進出の意義と問題   | 単           | 2006年09月      | 日本ジェンダー学会第10回大会   | 女性大学人気の低迷により、定員割れする大学が相次いでいる中、数は少ないものの理工学系の学部・学科を開設することによって活路を見出している大学もある。それらの大学に共通する理念は何か、理工学系分野進出の意義と問題は何かについて明確化を試みた。(神戸大学六甲台キャンパス)  |
| 15. 英国大学院で学ぶ留学生の動向とジェンダー：PMI以前と以降の比較を通じて  | 単           | 2006年06月      | 大学教育学会第28回大会  | 英国大学院で学ぶ留学生の動向について、英国の高等教育統計局(HESA)から独自に統計を入手し、ジェンダーの観点から考察を試みた。(東海大学湘南校舎)  |
| 16. 異文化間教育に関する横断的研究：共通のパラダイムを求めて  | 単           | 2006年06月      | 異文化間教育学会第27回大会 (ケース/パネル・パネラー)   | 異文化間教育のあり方を探るにあたって、ジェンダー教育との共通点と相違点について明確化を試みた。特に本質主義については疑問を呈し、多様性に注目することの重要性を指摘すると同時にそれだけでも問題があることについて言及した。(関西大学高槻キャンパス)  |
| 17. 国境を越える高等教育機関の動向と政府の国際化戦略：英国・香港の事例   | 共           | 2006年05月      | 日本高等教育学会第9回大会   | 広島大学のCOE研究の共同研究者として、英国の高等教育機関の動向と政府の国際化戦略について、ジェンダーの観点から試みることに要請された。有本章、横山恵子、大膳司、西尾亜希子。(学術総合センター)   |
| 18. 今日の大学の大量化と大学教育：将来の市民の育成のために   | 単           | 2003年06月      | 大学教育学会第25回大会、シンポジウム (シンポジスト)  | 博士論文執筆の際に調査対象としたロンドン大学院で学ぶ日本人留学生の動向や6年間にわたる自身の留学生活で見聞したことをもとに、日本の文化や伝統あるいは「当然」、「自然」、「当たり前」と捉えられている事象がそうとは限らないこと、そのような捉え方を批判的に捉えることによって既存の枠に捉えられない自由な発想の若者が育成される可能性があることを事例を挙げながら報告した。(大阪薬科大学)               |
| 19. 大学における女性学教育：教授法に関する現況と課題  | 共           | 2003年06月      | 大学教育学会第25回大会  | ラウンドテーブルで女性学がなぜ浸透しないのか、自省的に考える機会を持つということを目的に研究発表を行った。西尾亜希子、志水紀代子。(大阪薬科大学)   |
| 20. ロンドン大学大学院における日本人留学生の進路希望について：ジェンダーの視点から   | 単           | 2002年06月      | 異文化間教育学会第23回大会  | 博士論文の一部を発展させるかたちで報告した。本報告では、男子学生は留学前および留学中から脱サラ、起業、国際開発分野に従事等課程修了後の進路希望が明確で、日本での就職にこだわらない傾向が見られたが、女子学生の場合は男子学生と同じようなグループと語学留学ではない正規留学をすることが自らが留学の目的(「文化的旅行」と捉えることができる)になっており、進路希望が明確でないグループに2極化していた。(駿河台大学) |
| 21. Power Politics and the Cultural Creativity of Women in Japanese History : Transition from the pre-warrior to the post-warrior period <sup>7</sup> | 共           | 1999年06月      | Women's Worlds 99: the 7th International Inter-disciplinary Congress on Women | 「男は仕事、女は家庭」という性別役割分業観は、他の先進諸国と同様、日本でも比較的新しい考え方であることを歴史的に証明するために、様々な先行研究(画像を含む)をもとに報告した。富士谷あつ子、西尾亜希子。(University of Tromsø, Norway)  |
| 22. イギリス大学院に学ぶ日本人留学生が直面する問題・ジレンマの考察：ロンドン大学大学院生を対象とした事例研究  | 単           | 1999年05月      | 異文化間教育学会第20回大会  | 博士論文の一部について中間報告を行った。本報告では留学生はIELTSやTOEFLで高スコアを出していてもネイティブの学生と「対等に」ディスカッションしたり、論文を書いたりできないジレンマを最も強   |



研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称  | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月   | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称  | 概要  |
|--|---------|-------------|--|---|
| <b>2. 学会発表</b>   |         |             |  |   |
| 23. Studying as a Foreign Student in London: A case study of Japanese male and female postgraduate students at the University of London                                  | 単       | 1999年04月    | Euroconference: Gender, Higher Education and Development   | く感じていること、私的な問題（特に家族）が勉強に集中する上で強い影響を与えていることについて考察した。（鳴門教育大学）   |
| 24. イギリス青年男女のジェンダーによる役割分担に関する考察：ロンドンの青年男女を対象とした事例研究  | 単       | 1997年07月    | 女性学・ジェンダー研究フォーラム   | 博士論文の執筆にあたって実施したロンドン大学院で学ぶ日本人留学生（男女52名）を対象とした面接調査の一部について中間報告を行った。（University of Oxford, UK）<br><br>イギリスの若者の性別役割分業観を調べるために実施した男女計12名を対象に質問紙調査と面接調査をもとに、質問紙では「理想的な回答」あるいは自分を切り離れた「第3者的な回答」を、面接調査では「本音」と思われる回答をする傾向があることを明示した。（国立婦人教育会館） |
| <b>3. 総説</b>   |         |             |  |   |
| 1. Engaging with FACE: an international perspective  | 単       | 2017年2月27日  | Forum for Access and Continuing Education, FACE Monthly e-Bulletin, Issue No. 110, February 2017 | 2016年6月にアイルランドで開催されたFACEの大会で'Global Approaches to Widening Access from across the UK' と題されたラウンドテーブルセッションのパネラーとして出席した際に西尾が報告した日本の高等教育事情や高学歴女性と労働市場の関係、およびパネラーらとの「高等教育における広がる参加」に関する議論についてまとめたもの。                                       |
| 2. なぜ女性社長には留学経験者が多いのか—女性社長の生き方に学ぶ  | 単       | 2012年05月    | 日本学生支援機構編ウェブマガジン『留学交流』vol.14.  | 留学経験のある女性社長は多くの女性と何が違うのかについて女性社長15名について調べ、女子学生が留学を含むキャリアデザインをする上での示唆を得た。論考（日本学生支援機構からの依頼原稿。）  |
| 3. Another Side of the Globalisation of Education: female postgraduate students studying at the University of London   | 単       | 2002年12月    | 大阪府立女性総合センター編『Dawn』(December 2002)   | 博士論文の概要を国内外の一般の読者向けにわかりやすく説明したもの。グローバル化する高等教育において、女性の学位留学は能力が高く、語学留学では物足りないと感じる女性の間で人気が高く、高度な文化的旅行のような感覚に基づいている傾向があることを明らかにした。論考（大阪府立女性総合センターからの依頼原稿。）4-5頁。   |
| <b>4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績</b>  |         |             |  |   |
| <b>5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等</b>  |         |             |  |   |
| 1. 書評 『なぜジェンダー教育を大学で行うのか—日本と海外の比較から考える』（村田晶子・弓削尚子編著、青弓社、2017年）   | 単       | 2018年09月    | 『日本ジェンダー研究』第21号、日本ジェンダー学会  | 北米、フランス、中国、日本の第一線で活躍する研究者らが大学におけるジェンダー教育の歴史的経緯と現況や、男性学・男性性研究の教育的意義について執筆している同著を書評した。男女共同参画社会の実現、女性活躍が期待されるわが国において、大学でジェンダー教育を行うことの意義はきわめて大きい。   |
| 2. 報告書作成協力 『女子教育・女子大学（校）存続・拡充のための理論武装』   | 共       | 2018年01月    | 武庫川女子大学教育研究所   | 友田泰正教育研究所長が同報告書を執筆するにあたって、安東理則教育学部教授とともに研究所員および研究協力者として知識提供を行った。  |
| 3. 書評 『日本のジェンダーを考える』（川口章著、有斐閣選書、2013年）   | 単       | 2014年08月    | 『日本ジェンダー研究』第17号、日本ジェンダー学会  | 川口章同志社大学教授による同著を書評した。本著は学校教育、就職、結婚、出産、子育てなど様々なライフイベントに、ジェンダーがいかに深く関わっているかを論じているが、労働経済学を専門とする研究者らしく、それらのライフイベントを「キャリア」の視点から考察している点が新しいことを指摘した。93-95頁。  |
| 4. 書評 『異文化を知るこころ：国際化と多文化理解の視座から』（奥川義尚、堀川徹、田所清克編、世界思想社、2003年）   | 単       | 2004年06月    | 『異文化間教育』20号、異文化間教育学会   | 奥川義尚京都外国語大学教授らによる同著を留学経験や、日本人留学生が留学中に直面する問題について学業面だけでなく、私生活面にも焦点をあてて考察した経験を活かしながら書評を行った。94-98頁。   |
| 5. 翻訳 『ジェンダー学を学ぶ人のために』（富士谷あつ子、伊藤公雄監修）  | 単       | 2000年04月    | 世界思想社  | D. レナード著「イギリスにおける女性学の流れ」、36-58頁の翻訳を担当。イギリス女性学の第一人者であり、西尾の修士論文・博士論文の指導者であったレナードロンドン大学教育研究所教授による女性学の広がりに関する論文を翻訳した。36-58頁。  |
| 6. 書評 Familiar Exploitation: A New Analysis of Marriage in Contemporary Western Societies (by Christine Delphy & Diana Leonard, Cambridge: Polity Press, 1992, 301pages) | 単       | 1996年03月    | 『武庫川女性学研究』（創刊号）武庫川女子大学女性学研究会   | 修士課程、博士課程を通じ論文指導教官であったダイアナ・レナード教授の著書。53-54頁。  |
| <b>6. 研究費の取得状況</b>   |         |             |  |   |
| 1. 科学研究費補助金 基盤研究（C）新規  | 共       | 2017年07月～現在 | 文部科学省および日本学術振興会  | 研究代表者。課題番号17K04900 テーマは「女子大学生のための『お金』の視点を取り入れたキャリア教育カリキュラムの開発」、共同研究者は高屋定美関西大学商学部教授。   |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称             | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月         | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称              | 概要  |
|-------------------------|---------|-------------------|--------------------------------|---|
| <b>6. 研究費の取得状況</b>      |         |                   |                                |   |
| 2. 科学研究費補助金学内奨励金        | 単       | 2015年07月～2016年03月 | 武庫川女子大学                        | テーマは「女性のためのパーソナル・ファイナンス教育モデルの構築」である。  |
| 3. 科学研究費助成金 基盤研究 (C) 継続 | 単       | 2014年04月～2015年03月 | 文部科学省および日本学術振興会                | 研究代表者。課題番号24531084。テーマは「女性の貧困予防策としての教育のあり方に関する実証的研究」である。  |
| 4. 科学研究費助成金 基盤研究 (C) 継続 | 単       | 2013年04月～2014年03月 | 文部科学省および日本学術振興会                | 研究代表者。課題番号24531084。テーマは「女性の貧困予防策としての教育のあり方に関する実証的研究」である。(研究協力者は松並知子武庫川女子大学非常勤講師。)                     |
| 5. 科学研究費助成金 基盤研究 (C) 新規 | 単       | 2012年04月～2013年03月 | 文部科学省および日本学術振興会                | 研究代表者。課題番号24531084。テーマは「女性の貧困予防策としての教育のあり方に関する実証的研究」である。(研究協力者は松並知子武庫川女子大学非常勤講師。)                     |
| 6. 科学研究費補助金学内奨励金        | 単       | 2010年10月          | 武庫川女子大学                        | テーマは「アメリカの女子大学におけるリーダーシップ教育に関する実証研究—スミス・カレッジを中心に」である。   |
| 7. 公募委託調査研究費            | 共       | 2009年12月～2010年09月 | (財) 全国勤労者福祉・共済振興協会 (財団法人全労済協会) | 共同研究。共同研究者は高屋定美関西大学商学部教授。テーマは「社会的排除と高等教育政策に関する国際比較—高等教育の経済効果の視点から」である。                                |
| 8. 科学研究費助成金 基盤研究 (B)    | 共       | 2004年04月～2007年03月 | 文部科学省および日本学術振興会                | 研究協力者。研究代表者は、小島勝龍谷大学文学部教授で、テーマは「異文化間教育に関する横断的研究—共通のパラダイムを求めて」である。佐藤群衛、塚本恵美子、村田雅之、山本雅代、鈴木一代、馬淵仁、渋谷真樹他。 |

学会及び社会における活動等

| 年月日                  | 事項   |
|----------------------|--|
| 1. 2016年3月1日～現在      | Forum for Access and Continuing Education (英国)       |
| 2. 2012年11月～2013年10月 | Special Japanese Editorial Assistant of GALE Journal |
| 3. 2012年09月～2013年08月 | 日本ジェンダー学会誌『日本ジェンダー研究』編集委員長                           |
| 4. 2011年09月～現在       | 日本ジェンダー学会理事  |
| 5. 2011年09月～現在       | 日本ジェンダー学会誌『日本ジェンダー研究』編集委員                            |
| 6. 2003年06月～現在       | 日本教育社会学会   |
| 7. 2002年05月～現在       | 日本高等教育学会   |
| 8. 2001年09月～現在       | 大学教育学会   |
| 9. 1998年09月～現在       | 日本ジェンダー学会  |
| 10. 1992年06月～現在      | 日本女性学会   |
| 11. 1992年06月～現在      | 日本女性学研究会   |